

# 諫早干拓地の水門「諫早会議」で解決を

【朝日新聞・2月19日】九州北部、諫早湾干拓地の排水門は、裁判で決まった開門の期限を12月に迎える。いさかいの海にはいけない。対立する漁業者と農業者は対話の円卓に着き、科学的データをもとに話しあつてほしい。政府と長崎県は対話の環境作りを努めるべきである。ここにいたる大きな節目は、沿岸の漁業者らが有明海の水質悪化をとめるため、排水門を開けるよう求めた訴訟だった。福岡高裁は10年12月、水産物への被害を認め、「3年間の猶予の後、5年間の常時開門」を命じた。当時の菅直人首相が政治決断をして国の上告をやめ、判決は確定した。しかし、干拓農地を所有する長崎県農業振興公社と農業者らは翌11年4月、国に開門差し止めを求め、訴訟を長崎地裁におこして対抗した。

■干拓地で農業をしている人たちは、開門すれば堤防の内側にある淡水の調整池に海水が入って農業用水に使えなくなる、と反対してきた。■農水省は海水淡水化の大規模な施設の建設を13年度予算案に入れた。だが今も、長崎県や営業者は開門に反対している。戦後の食糧難から計画を進めた長崎県はこだわりがある。農家も、県から勧められてここで耕作しているのに話が違ふと、戸惑いが大きいだろう。■それでも、福岡高裁判決で開門が確定していることは、動かしようがない。■林芳正農水相は、昨年暮れの政権交代で就任

した後、初めて長崎県の中村法道知事らと意見を交換した。■開門に反対する知事らに、農水相は「国は判決によって開門義務を負っている」と話した。■政府は法治国家として、確定判決を実行する義務がある。それを農水相も踏まえている。■だが、気がかりな発言もあった。民主党政権の上告断念について「なんであんなことをしたのか」と疑問を口にした。政府に属する立場を考えれば、不要な言葉ではなかったか。

■このまま開門の期限を迎えれば、漁業者側は強制執行の申し立ても考えられる。■海にくらす漁業者、農地を心配する営業者、県のことわり、政権交代した政府……。事態はとも入り組んでいる。■これを調整するのは政治の役割だ。政府は、関係者が自分の言葉で話しあい、有識者が助言できる場を設けるべきだ。信頼を育て、合意を形成できれば、その努力は「諫早会議」として民主主義の手法になるだろう。

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

## 国策事業 地元に亀裂 諫早 干拓 開門調査へ再び混迷

【東京新聞・2月17日】九州・有明海の国営諫早湾干拓事業の地元が再び混迷を深めている。国は330億円と巨額の対策費を投じて、12月までに堤防排水門の開門調査を始めるが、地元関係者に歓迎や納得の声は少ない。大型公共事業が残す「負の遺産」の大きさが見えてくる。■「開門して海を元に戻してください。漁業で生計を立てさせてください」潮受け堤防の2キロ沖合でアサリ養殖をする松永秀則さん(59)は、今月初め、佐賀県入りした林芳正農相に懇願した。同様に携わる漁民も、次々に仕事や家計の苦境を訴えた。■一方、諫早市で翌日にあった地元営業者らとの意見交換会では、参加者が「開門は反対、許さない」と連呼した。開門しないという国の説明を聞いて干拓地に入植した農業生産法人の幹部は、約百人の従業員を雇い地元の雇用対策にも貢献していると林農相に説明。「開門して塩害の被害が出れば従業員の生活を保障できない。入植5年目で初めて黒字になろうとしているのに」と語気を強めた。

■広大な干拓農地を生かし、年間2400トンと日本屈指のキャベツ生産量を誇る荒木一幸さん(36)も意見交換会後、「こんないざこざが起きるのなら、最初から入植しなかった。国は本当に詐欺師ですよ」と国の不手際を翻弄される不満をぶちまけた。

■**分断**  
開門を求める佐賀県側の漁業者と、それに反発する地元営業者。自ら推進した事業で板挟みの農林水産省が編み出した策が、排水門を小さく開く「制限開門」だ。閉め切って淡水化された調整池の水位の変動幅を抑えることで農家への配慮をみせるが、干拓事業が有明海にもたらした影響を正

■**復元**  
実際に、堤防で閉め切った調整池を干潟として再生させた例も、国内外で報告されている。鹿児島大の佐藤正典教授(底生生物学)によると、国内では三重県志摩市の英虞湾で09年から取り組みが始まり、2年で35種類の生物が戻ってきた。韓国の順天市では干潟を保全し、年間三百万人の観光客が訪れる人気スポットにした。■宮城県気仙沼市の舞根湾では、東日本大震災の津波で堤防が破壊され、結果的に干潟が復元された。「国はそこにまた巨大堤防を造ろうとしているが、地元の住民は家を後背地に移し、干潟とともに生きる街づくりを目指している」と佐藤教授は注目する。■諫早湾干拓に対しても「幸か不幸か、諫早の地名とムツゴロウは有名のみならず世界からも称賛される」と問題を提起する。